

防コミの歩き方



地域ぐるみの防災教育で、防災力UP！

●中学校での防災教育を強化

現在神戸市消防局では、震災の教訓を風化させないため、地域と小学校が連携した防災教育支援をさまざまな形で実施しているところですが、長田消防署では、平成28年度から長田区内の全中学校（6校）を訪問し、防災福祉コミュニティ（以下、防コミと記す）をはじめとする地域とのつながりや、中学生に対する防災教育の必要性についてお話しさせていただきました。

丸山中学校は、以前から地元防コミと関わり防災学習を実施していましたが、他の五つの中学校では、1月17日前後に地震を想定した避難訓練や震災記録ビデオの鑑賞などの取り組みはされていたようですが、実地訓練や地域との交流などは特にないようでした。

平成28年度は西代中学校、高取台中学校の2校から賛同を得て防コミと消防署員の指導の下、簡易担架や消火器、バケツリレー、煙体験などの防災体験学習を実施しました。

●本年度の中学校の活動

昨年度はさらに長田中学校が加わり、4校が防災体験学習を実施し、本年度も1月16日に長田中学校、21日に高取台中学校、28日に西代中学校が防災体験学習を実施する予定です。本年度は地元消防団も加わり、「ゆれるん」による地震体験などの他、長田中学校では防コミによる震災当時の体験談を中心とした語り部が予定されています。

また丸山中学校では、1月17日に重池、



番町、会陽、名倉の4地区防コミの代表者が任命者として丸山中学校生徒会のメンバーに対する「防災ジュニアリーダー」の任命式が全校生徒の前でおこなわれます。

●最後に

四つの中学校からは地元防コミに対し、「防災体験学習を通じ中学生は自分の身を守るだけでなく、人や地域に貢献させたい」、「地域とのつながりの大切さや防災に対する意識を生徒に持たせたい」などの主旨で、防災体験学習への支援を依頼されており学校側の防災と地域に対する意識の向上が垣間見られます。

今後も地域住民と中学生との関係強化と活性化、そして地域の防災力UPを図るため、継続して取り組むことが必要です。

（長田消防署 甲斐康之）

